

政治研究結果報告書

—政治研究助成—

西暦 2023年2月28日

一般財団法人 櫻田會
理事長 増田 勝彦 殿

研究者 明治大学 政治経済学部 教授
高橋一行

第40回(2021年度)櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。

※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称 (英語も記入) Research Theme

ポスト資本主義社会の研究
On Post-Capitalism Society

※英文抄録 (研究目的、経過、成果 250 words 以内) Abstract (Purpose, Process, Significance)

There are many books on the arguments of post-capitalism society. Now we are on the brink of a profound change where capitalism has finally reached its limits.

I would like to articulate these arguments through S. Žižek's theory. He criticized the theory of accelerationism, which is one of the arguments of post-capitalism society. His theory is relied on the interpretation of J. Lacan's psychoanalysis and German Idealism from I. Kant to G. W. F. Hegel and K. Marx's economics and modern philosophy, especially M. Heidegger, J. Derrida, and G. Deleuze.

I have extended my research in these fields, following Žižek theory. I have bought more than 80 books, which relate with these topics, and then I have analyzed these.

I have already published these two books and one paper.

How Kant and Hegel answer the problem of speculative realism ? (Dec. 2001)

Post-Capitalism : Rethinking Žižek's interpretation of Hegel (Aug. 2002)

'Reading Hegel's logic through the topological structure' (Nov. 2002)

Žižek articulates Hegel's logic with topology. He argues the contours of this convoluted space in its three main forms : those of Möbius strip, the cross-cap, and the Klein bottle - a triad which echoes the basic triad of Hegel's logic : being, essence, notion..

I have read Hegel's logic through Žižek's point of view, which have led me to the new understanding of post-capitalism society.

※研究の目的・研究方法・意義（和文 600 字以内）

資本主義を超えるということはどういうことか。そもそも資本主義は越えなければならないのか。資本主義を超えることができるのか。その後の社会はどのような社会なのか。その政治学的含意は何か。

すでにポスト資本主義論と呼ばれる様々な議論があり、その中には加速主義として知られているものもある。まずはそれらの分析から始める。

またその研究を進める際に、S. ジジエックを参照する。ジジエックは精神分析学の手法で、現代社会を批判する論客として知られるが、実はドイツ観念論を正確に理解した上で、マルクス主義と現代哲学を吸収して、自説を展開している。そのジジエックを追うことによって、研究を進めることができる。

ジジエックは現在日本では30冊以上もの本が翻訳されており、良く知られた思想家であるが、その思想の全貌を解明したジジエック論はまだ一冊も日本では出ていない。ジジエックの精神分析学の理解の妥当性について論じたものはいくつかあるが、哲学、とりわけドイツ観念論の理解を問うものは皆無である。

ジジエックの議論を参照してポスト資本主義を論じることが本研究の目的だが、まずはジジエックの膨大な数の著作を整理し、その影響関係を追うことは、まだ日本では誰もやっていない仕事として価値がある。さらにその上でジジエックの議論の限界を示して、ポスト資本主義をジジエック以上に積極的に論じたい。

※研究経過と結果の概要（以下の欄に 35 行以内(1500 字程度)にまとめる）

この数年間考えてきたことを、2021年12月に単著書『カントとヘーゲルは思弁的実在論にどう答えるか』（ミネルヴァ書房）にまとめている。その問題意識を2022年度もさらに継続させたいと考えた。

現在、資本主義を超えることは不可能なのではないかという感覚が蔓延している。その中から加速主義と呼ばれる主張が出てくる。資本主義を加速させて、一気にそれを乗り越えようとするのである。その加速主義の理論的相関項として思弁的実在論と呼ばれる思潮がある。現象の世界を超えて物自体に辿り着くことができるのかというカントの問題提起に淵源を持ち、主観と客観の相関を超えて、その向こうの實在に至ろうという議論をするものである。その問題を解決するのに、もう一度カントとヘーゲルに戻って、それらを読解し、このふたりの著作の中に、1990年代から出てきた新しい主張への解答があることを示唆した。またその際に、とりわけヘーゲルの解釈については、ジジエックを参照した。

その後さらに研究を進め、その中間報告としての意味合いを持たせて、2022年8月に単著書『脱資本主義 - S. ジジエックのヘーゲル解釈を手掛かりに -』（社会評論社）を出版した。

資本主義社会は格差の拡大や環境破壊といった問題を抱え込み、このままでは人類は危機を迎えるという感覚があり、しかし資本主義を超えることができるのかということが問題としてある。その解決に向けて、J. ラカンの精神分析学と I. カント、J. G. フィヒテ、F. シェリング、G. W. F. ヘーゲルというドイツ観念論、K. マルクスの経済学、それに M. ハイデガー、J. デリダ、G. ドゥルーズなどの現代哲学を参照しつつ、ジジエックは議論をする。そのジジエックの議論を手掛かりに

して、脱資本主義のための理論的基盤を論じたのである。

さらに2022年11月、『ヘーゲル論理学研究』(No.28)に単著論文「ヘーゲル論理学をトポロジー理論で読む」を掲載した。マルクスの『資本論』にはヘーゲルの『大論理学』の論理が縦横に使われているが、その論理はトポロジカルなものであるというジジェクの理論を参照して展開したものである。ここで脱資本主義の論理的な根拠が得られた。

あらためてその議論の上で、資本主義を超えるということはどういうことかと問いたい。その政治学的含意は何か。

上述した通り、ジジェクは精神分析学とドイツ観念論、それにマルクス経済学や様々な現代哲学を参照しており、さらには時事問題、文学作品やサブカルチャーにもしばしば言及する。まずはそれらを追うことから研究を始めた。そのためにジジェクが参照している精神分析学、哲学、経済学、社会学、歴史学、文学の資料を集めた。

また私自身は長くヘーゲル論理学の研究をしてきたので、その理解とジジェクのそれを突き合わせてみる。するとジジェクの主張の意義と限界が明瞭になる。マルクスがヘーゲルを摂取した上で、資本主義批判をしたことをあらためて想起すべきである。

なお、研究助成金はすべて、必要な資料をアマゾンを通じて購入することに費やした。

さらに2023年の内に、先の単著書と同じく、社会評論社から続編を出すべく、現在準備をしている。

※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）

・単著書『脱資本主義 - S. ジジェクのヘーゲル解釈を手掛かりに - 』（社会評論社、2022年8月）

・単著論文「ヘーゲル論理学をトポロジー理論で読む」『ヘーゲル論理学研究』(No.28、2022年11月)

現在、上の単著書の続編を執筆している。2023年の内に、同じく社会評論社から出版する予定である。

〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。